

NEWSLETTER

CTC教育サービスの最新情報をお届けいたします

2026. 春号

新コース

Azure AI
Copilot Studio AIエージェント
Microsoft 365 と AI管理
VMware VCF Troubleshooting
Power Automate 実践
Power Apps実践
SD-WAN
実践セキュリティ

特集

laCとTerraform
～インフラを”コード=設計図”
で管理する～

コラム

VCFとWFで変わる
次のITスタンダード



CTC教育サービス

IT・技術研修ならCTC教育サービス
これから学ぶ人も、資格取得を目指す人も、最適なカリキュラムを選べます。
CTCテクノロジーのオリジナルコースやベンダー認定のコースなど、500以上の公開コースを定期開催しております。Webサイトでは、様々な角度(分野/ベンダー名/プロダクト名/資格/レベル/キーワード)から検索でき、スキルアップへの最適なプランを見つけ出すことができます。ますます活躍が期待されるエンジニアのスキルアップをCTC教育サービスは全力で応援します。

CTC教育サービス
<https://www.school.ctc-g.co.jp/>



LPI日本支部のセミナー

CTC教育サービスの堀講師が講演!

この度、2025年12月12日に開催されたLPI日本支部のウェビナーにて、ラーニングソリューションサービス部 堀光講師が「WDE試験合格に重要 JavaScript/Node.js/データベース」について講演しました。

堀講師は、アプリ開発者向けのプログラミングの研修から、Python等を使用したデータ分析など、最新技術の研修まで幅広い分野の講師をしており、本セミナーではWDEの試験の紹介や合格の秘訣の紹介とともに、Web Development Essentials (WDE) 試験においてサーバサイドの仕組みを理解する上で重要なJavaScript/Node.js/データベースについて、デモを交えながら解説いたしました。

ウェビナーの参加者からはWDEの質問のみにとどまらず、技術者の確保の難しさなどについての質問をいただきました。

当社は、今後もセミナー登壇や日々の研修/トレーニングを通じて、業界の発展と社会の課題解決に貢献してまいります。

ウェビナーアーカイブ動画

Youtube - 【公式】Linux Professional Institute (LPI) 日本支部

Linux Professional Institute (LPI) は、世界で20万人以上の認定資格者を持つ、ベンダーニュートラルなLinux・オープンソースの認定機関で、LPI認定であるWeb Development Essentials (WDE) はWebシステム開発の入り口として最適な試験です。

WDE試験合格に重要 JavaScript/Node.js/データベース
<https://www.youtube.com/watch?v=xt9JyVn5hQI>

新コース

ぞくぞくりリース!

最新のコースリリースをお届け!
コースの詳細・開催スケジュール・受講お申し込みは
CTC教育サービスwebサイトをチェック!
<https://www.schoo.ctc-g.co.jp/>

※記載されている内容は2026/4/10現在の情報です。

Microsoft AI コース ぞくぞくりリース!

次回開催
6/12
(金)

【ハンズオン演習付き】生成AI・エージェントを含むAIの基本概念と、Azure / Microsoft Foundryによる実装の入口を学ぶ

AI-901 Azure での AI の概要

(Microsoft認定トレーニング)

コースコード・価格(税込) P778(試験バウチャーなし) ¥71,500
P778V(試験バウチャー付) ¥83,600 期間 1日間 (09:30~17:30)

このコースでは、人工知能(AI)に関する基本概念と、Microsoft Azure 上で AI ソリューションを実装するための基礎となる技術要素を学習します。

特に、生成AI、AI エージェント、テキスト分析、音声、コンピュータビジョン、情報抽出といった代表的なAIワークロードについて、概念理解と Azure / Microsoft Foundry による実装の入口を体系的に把握することを目的としています。

CTC P778



次回開催
5/18
(金)

【ハンズオン演習付き】Microsoft 365、Copilot、エージェントの管理を学ぶ

AB-900 Microsoft 365 と AI 管理の概要

(Microsoft認定トレーニング)

コースコード・価格(税込) P813(試験バウチャーなし) ¥77,000
P813V(試験バウチャー付) ¥90,200 期間 1日間 (09:30~17:30)

このコースでは、Microsoft 365、Copilot、AI エージェントについて包括的に紹介します。前半でMicrosoft 365の基本概念、コアサービス、管理について学習します。後半でCopilotとエージェントがAIを活用してタスクを自動化し、コラボレーションを強化する方法を探ります。

またこのコースは「Microsoft 365 認定: Copilot およびエージェント管理の基礎」資格取得を目指したトレーニングを実施します。講義/演習、およびスキルチェックを通して試験合格に必要な知識を身につけることができます。

CTC P813



次回開催
4/27
(月)

【ハンズオン演習付き】Copilot Studio Lite で軽量のAIエージェントを作成する

MS-4019 エージェントを使用して日常のビジネスプロセスを変革する

(Microsoft認定トレーニング)

コースコード P814 価格¥55,000(税込) 期間 1日間 (13:30~17:00)

このコースは、日常のビジネスユーザーが Microsoft 365 Copilot Chat と SharePoint でエージェントを作成、管理、使用して日常のビジネスプロセスを変革する方法を確認します。

CTC P814



VMware VCF 待望の新コース

初回開催
8/17
(月)

VMware Cloud Foundation 9.0 環境のトラブルシューティングを体系的に学習！

VMware Cloud Foundation: Troubleshooting [V9.0]

(VMware by Broadcom認定トレーニング)

コースコード・価格(税込) VM119(試験バウチャーなし) ¥748,000
VM119V(試験バウチャー付) ¥792,000 期間 1日間 (09:30~17:30)

このトレーニングコースは、VMware Cloud Foundation 9.0 環境のトラブルシューティングに必要な知識、スキル、能力を習得することを目的とした、5日間の包括的なハンズオントレーニングです。

このコースでは、講義とハンズオンラボ演習を組み合わせ、VMware Cloud Foundation 9.0 環境における問題の診断と解決に必要な高度なスキルを習得することを目指します。また、問題の調査と解決、そしてログファイルの取得にも重点を置きます。

CTC VM119 🔍

セキュリティ / Cisco SD-WAN 研修アップデート！

初回開催
8/21
(金)

実践！セキュリティ (インシデント対応/ フォレンジック調査)

(CTCTオリジナルコース)

コースコード N495 価格¥99,000(税込) 期間 1日間 (09:30~17:00)

インシデント対応(セキュリティ被害が発生した際の対処方法)に関わるノウハウを、1日間で効率よく学習するためのコースです。

インシデント調査の対象となるデジタルデータの適切な保全方法や、被害状況・原因を明らかにするための調査方法について、座学と実機演習を通して学習します。

CTC N495 🔍

人気の Microsoft Power Platform 実践コースをリリース！

初回開催
6/10
(水)

変数/遅延/エラー処理などを活用した実践フローを作ろう！

Power Automateによる 業務自動化実践

(CTCTオリジナルコース)

コースコード P610 価格¥77,000(税込) 期間 1日間 (09:30~17:00)

本コース「Power Automateによる業務自動化実践」では単なる機能紹介にとどまらず、「実際の業務で使える自動化」を実現するための考え方と設計力を重視しています。

CTC P610 🔍

初回開催
6/5
(金)

もっと使いやすいアプリを作ろう！

Power Appsによる 業務アプリ開発実践

(CTCTオリジナルコース)

コースコード P611 価格¥77,000(税込) 期間 1日間 (09:30~17:00)

本コース「Power Appsによる業務アプリ開発実践」では、垂直ギャラリーや編集フォームを使った基本的なアプリ作成経験がある方を対象に、Patchやコレクションを活用した、より実践的な業務アプリ開発を学びます。

CTC P611 🔍

初回開催
8/6
(木)~

Cisco Catalyst SD-WANソリューションの入門コース

Cisco Catalyst SD-WAN Operation and Deployment (SDWFND)

(シスコ認定トレーニング)

コースコード N663 価格¥220,000(税込) 期間 2日間 (09:30~17:00)

Cisco Catalyst SD-WAN Operation and Deployment (SDWFND) トレーニングでは、Cisco Catalyst SD-WANの基礎知識やビジネス活用のポイント、システム構成の考え方を学びます。SD-WANのコア原則をもとに、柔軟でセキュア、かつクラウドにも対応したWAN環境を構築し、現代のビジネスニーズに応える方法を習得できます。

CTC N663 🔍

インフラを "コード=設計図" で管理する

IaC (Infrastructure as Code) と Terraform

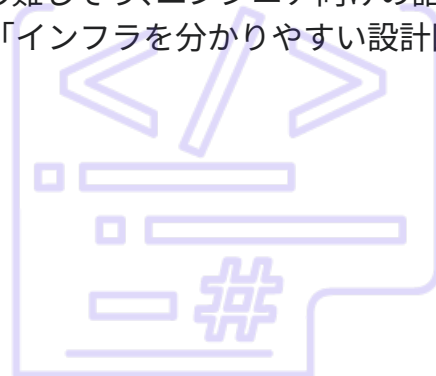


「Infrastructure as Code」「Terraform」という言葉を聞いて、少し難しそう、エンジニア向けの話だと感じた方もいらっしゃるかもしれません。しかしその本質は、「インフラを分かりやすい設計図として管理する」という、とてもシンプルな発想です。本特集記事では、IaCとTerraformの考え方をご紹介します。

SECTION

1

なぜIaCが必要か？

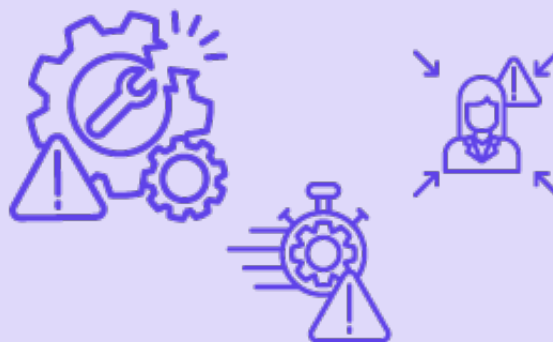


手作業のインフラ管理は、成長とともに限界をむかえる
インフラ(サーバーやネットワークなど、システムを動かすための基盤)を手作業で管理していると、下記のような課題が少しずつ積み上がっていきます。

一つひとつは小さな問題に見えますが、これらが重なるとチーム全体の開発や運用のスピードに深刻な影響を与えます。

手作業のインフラ管理で発生しうる課題

- 作業時間の増大
同じ設定作業を繰り返す必要がある
- ヒューマンエラー
設定漏れや入力ミスが発生しやすい
- 知識の属人化
特定の担当者しか構成を把握していない
- 状況把握の困難
現在の設定状態を即座に確認できない
- 復旧の遅延
障害時の対応に時間がかかる
- 待ち時間の発生
インフラ担当者への依存が高い

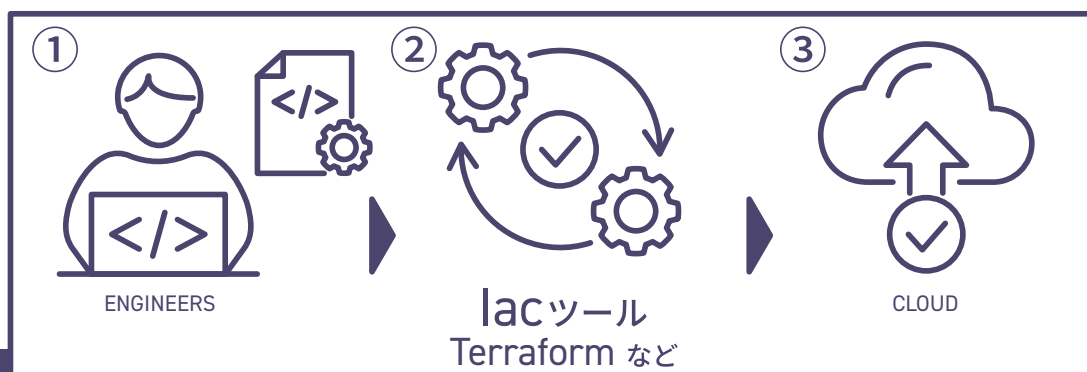


こうした状況を根本から変える考え方が、**IaC (Infrastructure as Code)** です。

laCという解決策 ～設計図を渡せばツールが構築する～

laCとは、インフラの構成を「コード（プログラムのような書き方をしたテキストファイル）」として記述し、そのファイルをツールに渡して自動的にシステムを構築する手法です。

「コード」という言葉に身構える方もいらっしゃるかもしれませんが。しかしここでいうコードは「家の設計図」に近いものです。設計図には「どの部屋をどの広さで・どこに窓を設けるか」が書かれており、その図面を渡せば工務店が建ててくれます。laCのコードも同様で、「どのようなサーバーを・どのような設定で・何台用意するか」を記述した設計図を渡せば、ツールが自動で構築してくれます。



- ① 作りたいインフラの情報をファイルに記述する
- ② そのファイルをIaCツール(Terraformなど)に渡す
- ③ ツールがクラウドに対して自動的にリクエストを送り、インフラを構築する

特徴

- ・設計図としてのコード … IaCのコードはインフラの完成形を示す設計図として機能し操作を自動化します。
- ・再現性と効率化 … 一度作成した設計図は何度でも再現可能で品質安定と作業効率向上に貢献します。
- ・透明性と共有資産 … テキスト化された構成は誰でも確認・レビュー可能でチーム共有を促進します。

IaC導入による効果

- ・作業時間短縮 … IaCにより手作業が減り、サーバー管理や構成変更が迅速に実行できます。
- ・ヒューマンエラー削減 … コード通りの処理で人的ミスが減少し、作業ミスや手順漏れが防げます。
- ・属人化解消と共有 … インフラ構成がコードで可視化され、チーム全体で状況を共有できます。
- ・迅速な復旧と開発促進 … 過去の正常コードへの復帰で障害対応が早まり、開発スピードも向上します。

IaCを実践するための主要な代表ツールに、**Terraform** があります。

Terraform の価値

Terraform とは？

HashiCorp 社が開発した IaC を実践するための主要な代表ツールで、IaC を個人の便利ツールからチームで安心して使える仕組みにします。

Terraformの主な機能

- ・ **プレビュー機能** … 変更適用前に内容を確認できるプレビュー機能で、意図しない変更を防止。
- ・ **ステート管理** … 現在のインフラ状態を記録し、コードと実環境の差異を検知・是正します。
- ・ **ロック機能による同時実行防止** … 複数人作業時の競合を防ぐため、操作の同時実行をロックで制御します。

Terraform は、従来の課題に対する解決策を標準機能として備えているため、IaC の事実上の標準ツール（デファクトスタンダードなツール）になっています。

まとめ

IaC と Terraform は、インフラを「職人技」から「再現できる設計図」へと進化させ、チーム全体のスピードと安全性を底上げする技術で、インフラの管理を手作業で行っていた従来と比較すると、非常に大きな変化をもたらします。

- ・ **透明性の向上** … IaC によりインフラ管理がコード化され、担当者に依存しない透明な運用が可能になります。
- ・ **再現性の確保** … 同じコードで作業するため、誰が実施しても同じ環境が再現でき信頼性が高まります。
- ・ **迅速な変更対応** … 変更や復旧が迅速に行えることで、ビジネスのスピードに柔軟に対応できます。

これまで、インフラは「特定の担当者しか触れられない領域」でしたが、IaC や Terraform がもたらす変化は、開発のスピードだけでなく、チーム全体の生産性、安心感、そしてサービスの信頼性も変えていきます。

IaC、Terraformを学ぶならCTC教育サービス

Terraformで実践するInfrastructure as Code入門

本コースでは、IaC のデファクトスタンダードツールである Terraform を使用し、その基本的な使い方から実務で必須となる状態 (State) の管理やコードのモジュール化といった重要な概念までを体系的に学習します。クラウドの持つ「迅速な構築」「完全な再現性」「コスト最適化」といった真のメリットを引き出すクラウド時代にふさわしいインフラ管理手法を習得できます。



コースの詳細・開催スケジュールはWebから

<https://www.school.ctc-g.co.jp/course/IAC01.html>

VCFとVVFで変わる

次のITスタンダード

CTCテクノロジー
人気講師書き下ろしコラム

第1回

(全4回)

Broadcom VMwareのVCFとVVFの概要 および 関連する資格について

企業ITを取り巻く環境は、クラウドシフトの加速やアプリケーションのモダナイズなどにより、これまで以上に多様で複雑になっています。こうした中、基盤そのものをよりシンプルに、そして一貫性を持って管理できるプラットフォームとして注目されているのがVMware Cloud Foundation (VCF) とVMware vSphere Foundation (VVF) です。

Broadcom への統合後、製品体系が再編されたことで、VCFとVVFの役割はより明確になり、多くの企業が次のITスタンダードを見据える上で重要な選択肢となりつつあります。

本連載コラム「VCFとVVFで変わる“次のITスタンダード”」では、季節ごとに下記の4回に渡って、これらのプラットフォームが企業インフラにもたらす価値を、段階的にわかりやすく紐解いていきます。

春号(今回):Broadcom VMwareにおけるVCFとVVFの概要、および関連資格の位置づけ

夏号:主要コンポーネントの仕組みと実際の活用シナリオ

秋号:導入・運用における設計ポイントと現場で押さえておきたい勘所

冬号:最新インフラ戦略と今後のトレンドを踏まえた展望

まずは本号で、VCFとVVFの全体像を押さえつつ、Broadcom体制での新しい資格体系もあわせて整理していきましょう。これからのIT基盤を考える上で、きっと皆さまの視野が一段広がるはずです。

現在のBroadcom VMwareでは、VMware Cloud Foundation (VCF) とVMware vSphere Foundation (VVF) の2つを主要な製品として販売しています。

これらの2つの製品は、従来の個別製品を統合してサブスクリプションとして販売されています。

またESX 9やvCenter 9を使用するには、VCF/VVF環境が必要です。

(従来のvSphereライセンスのままでは、ESX 9、vCenter 9にアップグレードできません)

今回は、VCF/VVFの概要と関連するエンジニア認定資格について紹介します。

(次ページに続く)

VMware Cloud Foundation (VCF) の概要

VMware Cloud Foundationは、データセンターとクラウドを統合するためのフルスタック型のプライベートクラウド基盤になります。従来の多くの製品が統合されており、下記のような複数コンポーネントで構成されます。旧Aria製品がバージョンアップしてVCF製品として組み込まれており、大企業向けの運用管理に対応できる製品となっています。

主要コンポーネント	機能
vSphere(ESX、vCenter)	コンピュータ仮想化
Tanzu Kubernetes Grid	コンテナ、vSphere Pod などコンテナランタイムを提供
vSAN	ストレージ仮想コア (CPU コアごとに 1TiB)
VCF Operations	VCF 環境のリソース / キャパシティ監視・分析など
VCF Automation	セルフサービス自動化
NSX	ネットワーク仮想化
HCX	仮想マシンのハイブリッドクラウド間の移行など
VCF Operations for Networks	ネットワーク監視・可視化
SDDC Manager	インスタンスにライフサイクル管理などを提供

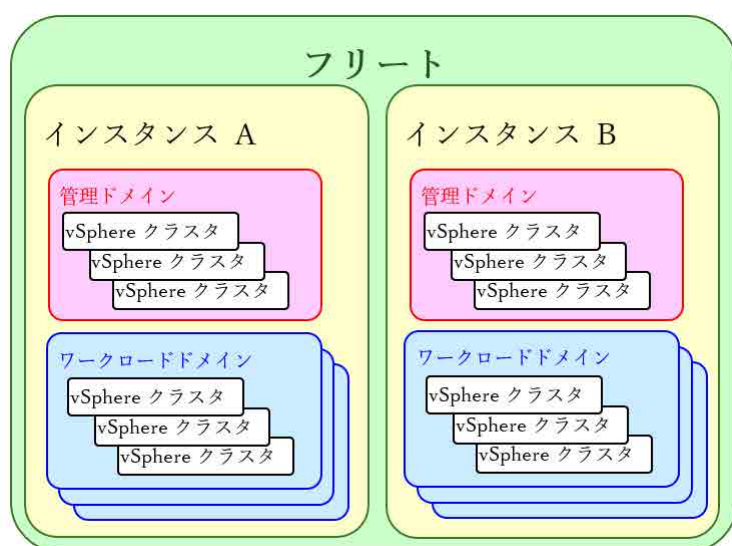
※その他、アドオンで追加のセキュリティ機能・ディザスタリカバリ向け製品・vSAN容量追加などの実装も可能です。

VCF Operations や SDDC Managerなどを使用して管理ドメインや複数ワークロードドメインを構築して、ドメイン単位での管理が可能です。さらに複数ドメインを含めたインスタンスという単位で管理が可能です。

VCF 9では、複数インスタンスを含めたフリートというさらに大きい単位で管理が可能になっています。

(管理ドメインのvSphereクラスタでは管理用ワークロードを配置します。ワークロードドメインでは、ユーザーのサービス用ワークロードを配置します。1つのドメインに複数のvSphereクラスタの登録が可能です。)

VCF 9における管理範囲のイメージ図



また従来の製品群ではマルチテナント環境を作成するのに、NSX Managerを使用して、個別コンポーネントの展開・構築・割り当てなどを行う必要がありました。

VCF 9では、vSphere Clientを使用して、簡単にVPCの構築・設定することが可能になっています。

(次ページに続く)

VMware vSphere Foundation (VVF) の概要

VMware vSphere Foundation (VVF) は、小規模環境向け・スモールビジネスに対応できる製品となっています。

VVFでは、NSXライセンスが含まれていないため、NSXを使用したい場合はVCFライセンスの購入が必要です。

またSDDC Managerが使用できないため、vSphereのライフサイクル管理は従来のvSphere Lifecycle Managerを使用した管理となります。

VVFのコンポーネントは下記の通りになります。

主要コンポーネント	機能
vSphere	コンピュータ仮想化
Tanzu Kubernetes Grid	コンテナ、vSphere Pod などコンテナランタイムを提供
vSAN	ストレージ仮想コア (CPU コアごとに 1TiB)
VCF Operations	VCF 環境のリソース / キャパシティ監視・分析など

※その他、アドオンで追加のディザスタリカバリ向け製品・vSAN容量追加などの実装も可能です。

※参考:「VMware Cloud Foundation 9.0.1 and VMware vSphere Foundation 9.0.1 Feature Comparison & Upgrade Paths」

<https://www.vmware.com/docs/vmware-cloud-foundation-9-0-feature-comparison-and-upgrade-paths>

VCFとVVFの資格について

現在はVCF・VVF製品がVMwareの主力製品として位置付けられており、多くの企業が導入し始めています。それに伴い、エンジニアもVCF・VVF環境をサポートする技術力が要求されます。技術力の証明として、Broadcom VMware 認定資格が存在しています。VMware認定資格では、VCP (VMware Certified Professional) と VCAP (VMware Certified Advanced Professional) の2つのグレードに分かれています。現在のVCF/VVF関連のエンジニア資格は、ロールベースに基づいたものに再編されています。

● VCF関連資格

ロール (役割)	VMware Certified Professional (VCF) 資格名称	対応するトレーニングコース
Architect (設計)	VCP-VCF Architect	VMware Cloud Foundation: Solution Architecture and Design [V9.0]
Implement (構築・運用管理)	VCP-VCF Administrator	VMware Cloud Foundation: Build, Manage and Secure [V9.0] VMware Cloud Foundation: Automate and Operate [V9.0]
Support (サポート・トラブルシューティング)	VCP-VCF Support	VMware Cloud Foundation: Troubleshooting [V9.0]

上記のほかに、VCFに対応したVMware Certified Advanced Professional (VCAP) 資格も登場しています。VCAP資格は分野ごとに特化した上級資格として存在します。(分野として、vSphere Kubernetes Service、Automation、Storage、Operations、Networking、Support、Architect、Administratorなど)※

2026年3月上旬時点では、VCAP対応の集合研修のトレーニングコースは日本で登場していません)

また、VVF環境向けの認定資格も別途存在します。

● VVF関連資格

ロール (役割)	VMware Certified Professional (VCF) 資格名称	対応するトレーニングコース
Implement (構築・運用管理)	VCP-VVF Administrator	vSpher Foundation: Build, Manage and Operate [V9.0]
Support (サポート・トラブルシューティング)	VCP-VVF Support	VMware Cloud Foundation: Troubleshooting [V9.0] ※現在、VVF 向けだけの Troubelshooting コースは未提供

※VCP/VVF関連資格の詳細は、下記URLのBroadcom 社公式Webページをご参照ください。

<https://www.broadcom.com/support/education/vmware/certification>

(次ページに続く)

VCF/VVFを学習するには？

VCF/VVFを学習するには、Broadcomサイトの技術ドキュメントがあります。

現在、VCF/VVFの技術ドキュメントは共通化されており、まとまった1つのPDFとしてダウンロードも可能です。但し、そのドキュメントは9000ページ以上あるため、初めての方が独学で学習するには非効率になる可能性があります。効率的に学習をするために認定トレーニングコースを活用するのは、いかがでしょうか？

当社で実施している下記のコースでは、短期間で効率よく体系的に学習できます。

VMwareを初めて学習する方は、vSphere認定トレーニングである「VMware vSphere: Install, Configure, Manage [V8.0]」またはVVF認定トレーニングである「vSphere Foundation: Build, Manage and Operate [V9.0]」をおすすめします。どちらのコースも仮想マシンの作成方法からvCenterの紹介、vSphere HAによる高可用性やvSphere DRS、Lifecycle Managerによるライフサイクル管理などを学習します。

● vSphere おすすめコース

コース名称	VMware vSphere: Install, Configure, Manage [V8.0]
コース概要	VMware ESXi 8 と VMware vCenter 8 を含む VMware vSphere 8 のインストール、設定、管理に焦点を当てた集中的なハンズオントレーニングを提供します。
参考 URL	https://www.school.ctc-g.co.jp/course/VM113.html
おすすめポイント	5日間で多くの実機演習（26個）が含まれており、多くの構築・運用・管理の設定を基礎から学習できます。各ストレージの接続設定やvSphere HAによる高可用性などを学習できる点がおすすめです。

VCF関連コースは、vSphere経験がある方を前提としておりvSphereの使用法/各機能の紹介はございません。VCF製品では、vSANやNSXが含まれますがトレーニングコースでは、vSANやNSXの紹介は概要にとどまるため、vSANやNSXを本格的に実装&活用する場合は、個別のvSAN・NSXトレーニングコースの受講および学習をお勧めします。

● vSAN おすすめコース

コース名称	VMware vSAN: Install, Configure, Manage [V8]
コース概要	VMware vSAN クラスターの計画と展開を進めるための知識、スキル、ツールを習得して、vSAN の管理と運用方法を学習します。
参考 URL	https://www.school.ctc-g.co.jp/course/VM110.html
おすすめポイント	従来の OSA 実装（ディスクグループ構成）だけでなく、ESA（ディスクグループを使用しない NVMe だけの実装）も学習します。2 ノード vSAN 構成で 2 台の ESXi がダウンしても動作が継続できる AQC 機能や 2 つのデータサイトにまたがって、1 つのデータサイト（データセンター）がダウンしても継続運用できる vSAN Stretch Cluster などの学習ができる点がおすすめです。

● NSX おすすめコース

コース名称	VMware NSX: Install, Configure, Manage [V4.0]
コース概要	VMware NSX 環境のインストール、構成、および管理の方法を総合的に習得します。NSX 4.0 で提供される主な特長と機能（インフラストラクチャ全般、論理スイッチング、論理ルーティング、ネットワークとセキュリティのサービス、ファイアウォール、高度な脅威に対する防御など）を紹介します。
参考 URL	https://www.school.ctc-g.co.jp/course/VM111.html
おすすめポイント	NSX のインストールから構成までを基礎から学習します。ラボでは、L2/L3 ネットワーク構成だけでなく、ロードバランサー実装や多くのセキュリティ機能も学習できます。（分散 / ゲートウェイファイアウォール、分散 IDS/IPS、アンチマルウェア、VPN など）

VCF環境の導入・運用管理を学習したい方は、下記のコースをお勧めします。

VCF Operationsを使用して、効率よく管理する機能を学習します。

● VCF おすすめコース

コース名称	VMware Cloud Foundation: Build, Manage, and Secure [V9.0]
コース概要	VCF Operations を使用して、VMware Cloud Foundation 環境を使用したプライベートクラウドの導入、管理、運用できる知識、スキル、能力を身につけます。
参考 URL	https://www.school.ctc-g.co.jp/course/VM118.html
おすすめポイント	VCF 環境の構築から、VCF Operations を使用した超エンタープライズ向けの各種の管理機能がラボで体験できます。また vSphere Client を使用して VPC 作成が簡単に構築できる内容もラボで学習できます。

※参考:VMwareコースの受講フロー

VMwareのコースフロー <https://www.school.ctc-g.co.jp/vmware/qualification.html>

● 模擬試験で実力をチェック

本番の認定試験前に、模擬試験を受験することは非常に効果的です。CTC教育サービスの各トレーニングに付随する模擬試験であるスキルチェックを活用することで、自身の知識レベルを客観的に把握し、苦手分野を特定できます。模擬試験を解くことで、本番の試験時間配分や問題形式に慣れることができ、自信を持って試験に臨むことができます。間違えた問題については、なぜ間違えたのかを徹底的に分析し、繰り返し復習できます。

クラウド・仮想化に強いCTC教育サービスでは、VMware関連だけでなく、様々なベンダーのクラウド・仮想化コースを提供しています。またDX推進も視野に入れたAIリテラシー向上などAI人材育成の支援まで対応いたします。

IT研修サービスは、是非CTC教育サービスにお任せください。

著者:盛 洋史

CTC教育サービスがVMware認定トレーニングを開始した当初から現在まで、VMware講師としての確かな技術力と指導力を持つ第一線の認定講師。VMware製品以外のトレーニングも登壇する層の厚さと幅の広さを持つベテラン。見た目は穏やかだが、情熱あふれる講義が人気。

VMware by Broadcom 研修 好評定期開催中！

CTC教育サービスでは、VMware by Broadcom認定トレーニングセンターとして、各種仮想化研修コースを開催しております。VCP-DCV資格取得のための前提コースである「VMware vSphere: Install, Configure, Manage」「VMware vSphere: Operate, Scale and Secure」から上位コースまで、お客さまの目的にあったスキルを習得していただけます。

<https://www.school.ctc-g.co.jp/vmware/index.html>

お問合せ先

CTCテクノロジー株式会社

ラーニングソリューション営業企画部

〒105-0004 東京都港区新橋 6-1-1 芝御成門タワー

TEL 0120-667230 (9:00 ~ 12:00 土日祝を除く) WEB <https://www.school.ctc-g.co.jp/>